

少女向け/女性向けコミック誌における 恋愛行動・性行動の描写数と内容の検討

高坂康雅 *KOSAKA Yasumasa*

- 1 — 問題と目的
- 2 — 方法
- 3 — 結果と考察
- 4 — 本研究のまとめと課題

【要旨】 本研究の目的は、少女向けコミック誌および女性向けコミック誌における恋愛行動・性行動の描写数をもとに、それぞれの特徴を比較し、また、前後の文脈をもとにキス場面の内容分析を行い、少女向けコミック誌および女性向けコミック誌における恋愛像、あるいは男性像と女性像の描かれ方を明らかにすることである。それぞれの恋愛行動・性行動の描写数から、少女向けコミック誌は恋愛関係が構築されるまでを描く傾向にあるが、女性向けコミック誌は関係構築以降の口論や別れまで描いている、告白や別れの場面では男性が主導権をもっている、などの特徴が見出された。また、キス場面の内容分析から、恋愛関係・夫婦関係以外でのキスも半数程度描かれており、男性が一方的に女性にキスをする場面が多数みられることも確認された。今後は、読者である子どもや青年が描写されている恋愛行動・性行動をどのように受け止め、感じとっているかを明らかにする必要があることが示唆された。

1 — 問題と目的

一般に、青年期に入ると、人は異性に興味や関心をもち、そのなかで特定の異性に好意をよせ、親密な関係（恋愛関係）を構築したいと望むようになると考えられており、実際、青年の中には恋愛関係を構築していく者も少なくない。このように、青年は異性や恋愛に興味・関心をもっているが、実際に、家庭や学校で恋愛について教わる経験は多いとはいえない。日本性教育協会（2013）では、中学生・高校生・大学生を対象に、「性について知りたいこと」を尋ねたところ、「妊娠のしくみ」や「セックス（性交）」、「性感染症」、「人工妊娠中絶」などよりも「恋愛」が多く選択されている（図1）。一方、性について学校で教わった覚えがあるかを尋ねたところ、「恋愛」は、26.3%（大学生女子）から40.2%（中学生男子）にとどまり、「妊娠のしくみ」はすべての学校段階で80%以上、「避妊の方法」は高校生・大学生で70%以上、「性感染症」は高校生・大学生で60%以上、「セックス（性交）」は高校生・大学生で50%以上となっている（図2）。セックス（性交）やそれに伴うリスク

及びリスク回避については、半数以上が「教えてもらった覚えがある」と回答しているのに対し、恋愛については、半数にも満たず、青年の「恋愛について知りたい」というニーズと実際の家庭・学校での性教育とは一致していないことが推測される。

では、青年は恋愛について、どこから情報を得ているのであろうか。日本性教育協会(2007)が、男女交際の仕方に関する情報源について尋ねたところ、「友人」が男女ともに最も多く、中学生で50%程度、高校生で60%程度、大学生では70%以上が、男女交際の仕方の情報源として「友人」を選択している(図3)。次に多く選択されているのは、男子では「先輩」であるが、女子では「コミックス/雑誌」であり、情報源の性差を見て取ることができる。女子が「コミックス/雑誌」を恋愛・男女交際の情報源とする傾向は、「セックス(性交)」や「避妊方法」についても同様であり、男子が「セックス(性交)」や「避妊方法」の情報源として、「ポルノ雑誌(H雑誌)/アダルトビデオ」を多く選択しているのに対し、女子は「コミックス/雑誌」を選択する割合が高いことが明らかにされている。このような傾向について、石川(2008)は“彼女達が性を扱ったメディアを手にする理由は、そこに恋愛についてのモデルを求めるからである”と述べており、牧野・石田・藤田(2012)はこのような傾向から、“少女向けコミックは、内容がほぼ恋愛に関してのものであり、女子は恋愛への関心からコミックを情報源にすることで、恋愛のプロセスを学習している”と推測している。

確かに、少女向けコミックには、恋愛に関わる内容のものが多く、雲野(1996,2006)は少女向けコミック誌の内容分析を行っているが、掲載されているマンガのうち、1995年では88.7%(雲野,1996)、2005年でも65.1%が、恋愛に関わる内容のマンガとして分類されており、“相変わらず少女マンガは恋愛至上主義といえよう”と述べている(雲野,2006)。少女向けコミック誌のような「コミックス/雑誌」は小学生や女子青年にとって、身近で手に入れやすいメディアのひとつである。また、友人や先輩が必ずしも恋愛経験が豊かであるとは限らない中、「コミックス/雑誌」は、恋愛に関心をもつ女子にとって、重要な情報源となっていると考えられる。

一方、「コミックス/雑誌」を情報源とすることには、問題や危険性があることも指摘されている。牧野ら(2012)は少女向けコミック誌における恋愛や性に関する言語について検討している。そのなかで、キスシーンや抱擁シーンでは、男性が不意を狙い一方的に行う場面が多く、「男らしさ」としての攻撃性、支配性、優越性、「女らしさ」としての優しさ、従順さ、献身性が強調されたジェンダーバイアスに満ちた関係性が描かれていると指摘している。また、金子(2013)は、青年の恋愛知識の情報源が、携帯小説、コミックス、テレビドラマなどのメディアに偏っており、そこで描かれる「恋愛=カップル=幸せ」や「恋愛=セックス」というパターン化された恋愛願望や恋愛至上主義に青年たちがおおられており、しかも、それらの情報源には、避妊や性感染症予防、ノーバイオレンスなどの科学的情報がほとんど扱われていないと述べている。

女性向けコミック誌では、これらの問題はさらに深刻である。特に、“主に成人女性を対

図1 性について知りたいことへの回答 (%)

(日本性教育協会(編) (2013)より作成)

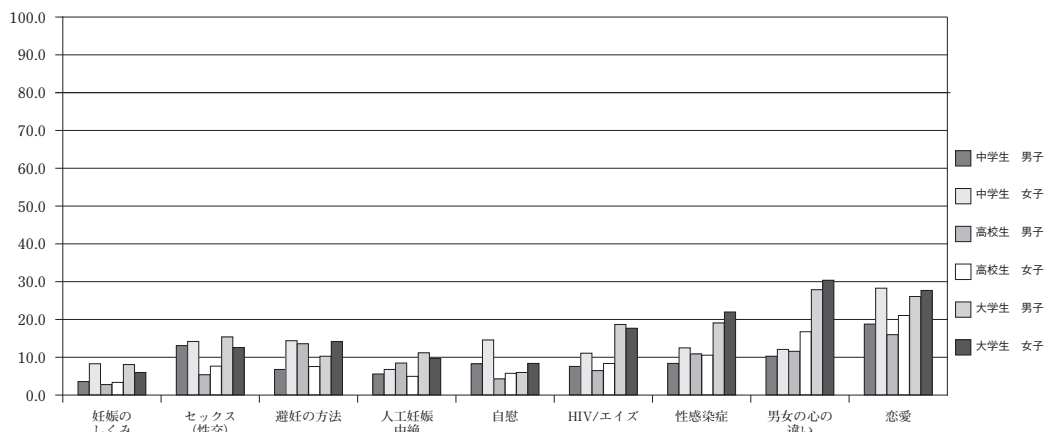


図2 性について学校で教わった内容への回答 (%)

(日本性教育協会(編) (2013)より作成)

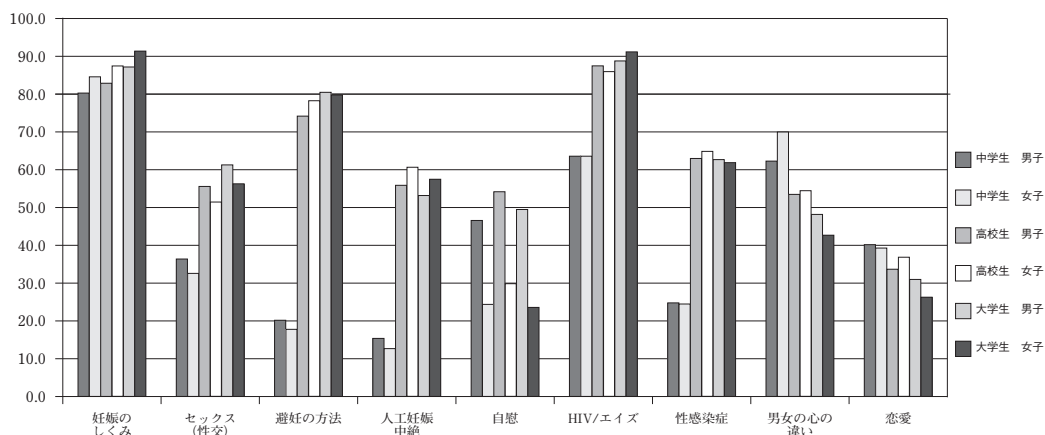
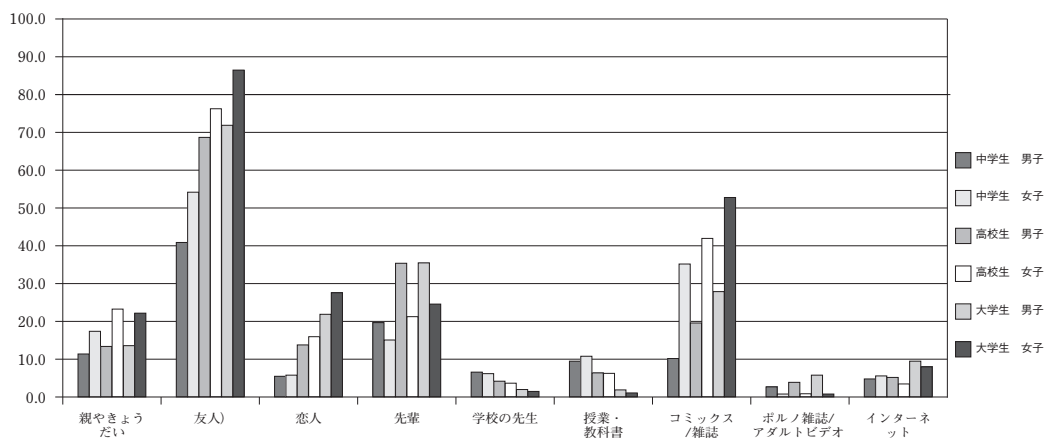


図3 男女交際の仕方についての情報源への回答 (%)

(日本性教育協会(編) (2007)より作成)



象とし、性的描写を主としたマンガ” (田代, 2008) が掲載されている「レディース・コミック」には、雑誌全体の 20~40% が性描写で占められており、その内容も、①主人公が異性と両思いになったら即日性行為に及んでいる、②知人間レイプが多い、③避妊に関する描写がほとんどない、という特徴があることが指摘されている (田代, 2008)。特に①主人公を異性と両思いになったら即日性行為に及んでいるものには、高校生を主人公としたものが多いことが示されている (田代, 2008)。ここから田代 (2008) は、「レディース・コミック」で描かれているストーリーは、「恋愛=性行為=暴力」という図式として表されるものが多く、性差別的で暴力的な性情報源となっていると指摘している。

もちろん、すべての女性向けコミック誌が、「レディース・コミック」のような性描写を多分に含んでいるとは言えないが、少なくとも、小・中学生を対象とした少女向けコミック誌に比べると、キスやセックスのような、より親密で具体的な恋愛行動・性行動が多く描かれていることは推測される。しかも、性描写を多く含んだ「レディース・コミック」であっても“表紙を見ると他の少女マンガと変わりなく、かわいらしい絵が描かれているものがほとんど” (田代, 2008) であり、書店やコンビニエンスストアでも、少女向けコミック誌の隣に、「レディース・コミック」を含む女性向けコミック誌が陳列されており、誰でも入手できる状態にある (牧野ら, 2012)。そのため、女性向けコミック誌であっても、小・中学生が読み、恋愛の情報源としている可能性も否定できないのである。

そこで、本研究では、少女向けコミック誌と女性向けコミック誌に描かれている恋愛行動・性行動を量的に把握し、また、描かれている恋愛行動・性行動の前後の文脈から、どのような恋愛像、あるいは男性像と女性像が描かれているかを明らかにすることを目的とする。これにより、女子青年がコミックスからどのような恋愛の情報を得ているのかを把握し、コミックスを恋愛の情報源とすることの意義や問題点を捉えることができると考える。

なお、一般的に、女性向けコミック誌には、性的描写を主とした「レディース・コミック」も含まれるが、「レディース・コミック」の問題点についてはすでに田代 (2008) などで指摘されていることや、「レディース・コミック」以外の女性向けコミック誌については、これまで十分な検討がなされていなかったことなどを考慮し、本研究では、女性向けコミック誌には「レディース・コミック」は含めないこととする。

2 — 方法

調査対象

調査対象誌は、一般社団法人 日本雑誌広告協会が公表している JMPA マガジンデータの「少女向けコミック誌」カテゴリーに分類されている 15 誌および「女性向けコミック誌」カテゴリーに分類されている 16 誌 (印刷証明付部数が確認できるもの) から、2011 年 10 月 1 日から 2012 年 9 月 30 日における発行部数の上位 7 誌ずつを選択した。

本研究では、各コミック誌について、2013 年 6 月に発売されたものを分析対象とした。

分析対象となったコミック誌の詳細を表1に示す。

データの収集・分析手続き

本研究では、具体的な恋愛行動・性行動として、松井 (1990, 2000)、飛田 (1991) などを参考に、(1) 交際前の行動として、①ナンパ (男性から女性、女性から男性)、②告白 (男性から女性、女性から男性) の2つを、(2) 交際中の行動として、③口げんか・口論、④暴力を含むケンカ、⑤ストーキング・迷惑行動、⑥プロポーズ (男性から女性、女性から男性) の4つを、(3) 交際終了の行動として、⑦別れの宣告 (男性から女性、女性から男性) を、とりあげた。また、(4) 性行動として、⑧キス、⑨ハグ・抱擁、⑩ペッチョング、⑪セックス (性交) を想像させるもの、⑫セックス (性交)、⑬オーラル・セックス、の6つをとりあげた。

なお、恋愛行動・性行動のカウントは、1つの行動が複数のコマで描かれている場合は「1」とカウントした。また、⑧キスや⑨ハグ・抱擁については、恋愛関係が構築されているか否かにかかわらず、好意を寄せている相手とのものを「1」とカウントし、友人間での挨拶などの意味で行われているものは、カウントしなかった。

分析では、まず上記の具体的な恋愛行動・性行動の数をカウントし、少女向けコミック誌と女性向けコミック誌における恋愛行動の表現について、量的検討を行う。

次に、具体的な恋愛行動・性行動の描写の中から、キス場面をピックアップし、キスが行われている文脈について、内容分析を行う。

3——結果と考察

少女向けコミック誌・女性向けコミック誌における恋愛行動・性行動の量的分析

少女向けコミック誌、女性向けコミック誌における具体的な恋愛行動・性行動の描写数を表2および表3に示した。

まず、少女向けコミック誌では、恋愛行動を描いた場面が67場面みられた。恋愛行動では、(1) 交際前の行動が50場面 (74.6%) であり、特に、告白 (男性→女性) が23場面 (34.3%) と最多であった。告白 (女性→男性) の14場面 (20.9%) と合わせると、半数以上

表1 分析対象誌の発行部数・総ページ数・掲載マンガ数

	雑誌	発行部数 ^{注1}	総ページ数 ^{注2}	掲載マンガ数 ^{注3}
少女向け	A	620,000	536	20
	B	225,000	632	18
	C	212,500	644	20
	D	173,250	466	16
	E	170,834	542	21
	F	160,392	462	17
	G	155,950	548	16
女性向け	H	125,632	360	15
	I	125,431	452	20
	J	100,750	450	13
	K	98,364	456	20
	L	93,559	426	16
	M	84,650	618	21
	N	78,334	692	17

注1. 発行部数はすべて、印刷証明付部数である。

注2. 総ページ数は、目次や広告などを含んでいる。

注3. 掲載マンガ数は、1人(あるいは1組)の作者が書いている作品を「1」とし、同一作者が同一タイトルで書いているが、掲載が複数箇所に移っているものも「1」とカウントした(主に4コマ漫画など)。ただし、付録に掲載されている漫画はカウントせず、分析の対象としなかった。

が告白場面であることが明らかになった。一方、(2) 交際中の行動は、F誌以外ではほとんどみられなかった。これは、本研究で取り上げた(2) 交際中の行動は、プロポーズを除くと、ネガティブな恋愛行動であることも関わっていると考えられる。雑誌別にみると、F誌(30場面; 44.8%)とB誌(18場面; 26.9%)で、多くの恋愛行動の描写がみられた一方、A誌(4場面)、D誌(2場面)、E誌(1場面)、G誌(3場面)は、恋愛行動の描写がほとんどみられず、恋愛行動の描写において、少女向けコミック誌は二極化している可能性が考えられる。

次に、少女向けコミック誌において性行動を描いた場面は、80場面であった。そのうち、キスが26場面(32.5%)、抱擁・ハグが44場面(55.0%)であり、それ以上の性行動はほとんど描かれていなかった。雑誌別にみると、F誌が34場面(42.5%)と最も多く、恋愛行動と同じ傾向がみられたが、性行動の描写が10場面(12.5%)と3番目に多かったE誌は、恋愛行動の描写は1場面しかみられておらず、必ずしも恋愛行動の描写と性行動の描写が関連しているとは言えないことが明らかになった。

女性向けコミック誌では、恋愛行動を描いた場面が77場面みられた。(1) 交際前の行動が41場面(53.2%)であり、(2) 交際中の行動が31場面(40.3%)であった。最も多く描写されていたのは、少女向けコミック誌と同様、告白(男性→女性)と告白(女性→男性)であり、ともに14場面(18.2%)であった。雑誌別にみると、K誌が24場面(31.2%)、M誌が21場面(27.3%)、N誌が17場面(22.1%)と多くみられたのに対し、H誌では、本研究で取り上げた恋愛行動の描写は1場面もみられなかった。

女性向けコミック誌における性行動を描いた場面は、74場面であった。抱擁・ハグが32場面(43.2%)で最も多く、キスも30場面(40.5%)あり、この2つの性行動で85%近くを占めていた。一方、少女向けコミック誌ではまったくみられなかったセックスの描写が、6場面(8.1%)みられているが、そのうち5場面がJ誌であり、セックスの描写の数は、J誌の特徴が反映されていると考えられる。雑誌別にみると、J誌が29場面(39.2%)、N誌が23場面(31.1%)と多く、他誌の性行動の場面は一桁であった。

少女向けコミック誌と女性向けコミック誌とを比較すると、まず、恋愛行動において、少女向けコミック誌では、(1) 交際前の行動が67場面中50場面(74.6%)であったのに対し、女性向けコミック誌では、77場面中41場面(53.2%)であった。一方で、(2) 交際中の行動は、少女向けコミック誌が14場面(20.9%)であったのに対し、女性向けコミック誌では、31場面(40.3%)であった点があげられる。少女向けコミック誌で、(2) 交際中の行動を描いているのは、F誌を除くとほとんどなく、F誌を除くと、B誌、C誌、G誌がそれぞれ1場面描いているだけであった。それに対し、女性向けコミック誌では、K誌が14場面、M誌が8場面、N誌が4場面、J誌が3場面と、7誌中4誌で、(2) 交際中の行動が複数場面描かれていた。ここから、少女向けコミック誌は、出会って、好意を抱き、告白をして、カップルになるまでが描かれる傾向にあるのに対し、女性向けコミック誌は、カップルになってからの口論・ケンカ、さらには別れの宣告など、恋愛関係構築後の行動

を含めて描かれる傾向になると考えられる。

また、告白や別れの方向性を見ると、少女向けコミック誌では、男性からの告白が23場面であったのに対し、女性からの告白は14場面であった。また、別れの宣告は、3場面すべてが、男性から女性に告げられていた。対して、女性向けコミック誌では、男性からの告白も女性からの告白も14場面と同数であり、別れの宣告は、男性からは2場面であっ

表2 少女向けコミック誌における雑誌別の恋愛行動・性行動描写数

		A	B	C	D	E	F	G	合計
交際前	ナンパ (男性→女性)		6		1		1	1	9
	ナンパ (女性→男性)		3				1		4
	告白 (男性→女性)	2	2	5	1		12	1	23
	告白 (女性→男性)	2	4	3		1	4		14
交際中	口げんか・口論		1				6	1	8
	暴力を含むケンカ						2		2
	ストーキング・迷惑行動						1		1
	プロポーズ (男性→女性)			1			2		3
	プロポーズ (女性→男性)								
	別れ (男性→女性)		2					1	
別れ (女性→男性)									
	恋愛行動合計	4	18	9	2	1	30	3	67
性行動	キス		1	4	1	4	13	3	26
	抱擁・ハグ	3	4	7	6	6	13	5	44
	ペッチョング		1				5		6
	セックスを想像させるシーン						3	1	4
	セックス								
	オーラル・セックス								
	性行動合計	3	6	11	7	10	34	9	80

表3 女性向けコミック誌における雑誌別の恋愛行動・性行動描写数

		H	I	J	K	L	M	N	合計
交際前	ナンパ (男性→女性)				2		8		10
	ナンパ (女性→男性)						3		3
	告白 (男性→女性)			4	4	1	1	4	14
	告白 (女性→男性)		2	1	1	1	1	8	14
交際中	口げんか・口論			2	4	1	4		11
	暴力を含むケンカ				1		2	1	4
	ストーキング・迷惑行動				6			3	9
	プロポーズ (男性→女性)		1		3		1		5
	プロポーズ (女性→男性)			1			1		2
	別れ (男性→女性)				1				1
別れ (女性→男性)		1		2					3
	恋愛行動合計		4	8	24	3	21	17	77
性行動	キス	1	1	14	2		1	11	30
	抱擁・ハグ		5	8	3	3	2	11	32
	ペッチョング		1				1		6
	セックスを想像させるシーン	2		2		1			5
	セックス			5				1	6
	オーラル・セックス								
	性行動合計	3	6	29	5	4	4	23	74

たが、女性からは3場面であった。これらを見ると、少女向けコミック誌の方が、より男性に告白や別離の主導権があることを印象づける描写になっていると考えられる。牧野ら(2012)は、“少女コミック誌を読んでいる小中学生の年代から、男性は優位で女性は受身であるべきという間違ったとらえ方になじんで”しまう懸念を示している。この指摘は、キスシーンや抱擁シーンの分析から出されているものであるが、告白や別れのような関係の開始・終了においても、少女向けコミック誌では、男性が主導権をもち、女性の方が男性に対して好意をもっていたとしても、「女性から告白しない方がよい/すべきではない」あるいは「告白や別れの宣告は男性がすべきである」というような、恋愛関係におけるジェンダー・ステレオタイプを形成している可能性があるかと推察される。

さらに、性行動の描写では、キスについては、少女向けコミック誌が26場面であったのに対し、女性向けコミック誌は30場面であり、女性向けコミック誌の方が多かった。一方、抱擁・ハグの描写数は、少女向けコミック誌が44場面であったのに対し、女性向けコミック誌は32場面であり、少女向けコミック誌の方が多くみられた。また、少女向けコミック誌では、セックスを想像させるシーンが4場面あり、セックスの描写はみられなかったが、女性向けコミック誌は、セックスを想像させるシーンが5場面、セックスの描写が6場面みられた。これらから、少女向けコミック誌の性行動は、キスや抱擁・ハグまでであるが、女性向けコミック誌の性行動の描写は、セックスまで許容されていると考えられる。ただし、少女向けコミック誌で、セックスを想像させるシーンの4場面中3場面はF誌であり、また、女性向けコミック誌のセックスを想像させるシーンの5場面中2場面、セックスの描写の6場面中5場面はJ誌であったことから、セックスを想像させるシーンやセックスの描写は、少女向け・女性向けというカテゴリーよりも、コミック誌の編集方針に影響を受けていると考えられる。

なお、本研究では分析の対象にしなかったが、調査対象誌のなかには、複数の男性に女性が囲まれ、襲われそうになる場面のような暴力行為を想像させる場面や、女性が使用したスプーンを男性がなめる場面、女性(高校生)に男性が望む露出の多い下着や水着を着させる場面、女性の胸(乳房ではなく、首の下)についたソフトクリームを男性がなめようとする場面など、フェティシズムを反映・喚起させるような場面が、少女向けコミック誌、女性向けコミック誌ともに、若干数ではあるがみられている。

少女向けコミック誌・女性向けコミック誌におけるキス場面の内容分析

量的分析で指摘したように、多くの少女向けコミック誌における性行動の描写は、キスをひとつの許容範囲の限界としており、女性向けコミック誌では、キス以上の性行動であるセックスが描写されている点に違いがあると考えられる。そこで、少女向けコミック誌と女性向けコミック誌におけるキスの描写の特徴について、キスの描写の前後の文脈を考慮して、比較検討を行った。少女向けコミック誌および女性向けコミック誌におけるキス場面における人物の属性、関係性、好意の有無、状況を、表4および表5にまとめた。

表4 少女向けコミック誌におけるキス場面のまとめ

雑誌	番号	属性		部位・方向性 (女性←男性)	関係性	女性の男性 への好意	状況
		女性	男性				
B	1	高校生	高校生	唇 ← 唇	恋愛関係	○	男性を励ましたのち、離れる際に男性から不意にキスをする
C	2	小学4年生	小学4年生※	唇 ← 唇	幼馴染み	○	温泉に一緒に入っている中、男性から不意にキスをし、その後、告白をする
	3	中学2年生	中学2年生	おでこ←唇	知り合い	×	女性が居眠りをしている際に、男性が勝手にいき、立ち去る
	4	中学2年生※	中学2年生	唇 → 唇	同級生	○	暴行されそうになるところを助けに来て大怪我を負い倒れている男性に、女性からキスをする
	5	中学2年生	中学2年生	唇 ↔ 唇	同級生	○	双方から告白があったのちに、キスをする
	6	高校生	高校生	唇 ← 唇	恋愛関係	○	女性が男性を呼び止め、キスして欲しいと言い、男性が求めに応じてキスをする
E	7	中学生	中学生	唇 → 唇	ダンス仲間	○	男性が寝ているところを、女性からキスをする
	8	高校生	高校生	おでこ←唇	恋愛関係	○	他の女性から言い寄られるが、恋人がいることをアピールするために、女性を抱きかかえ、キスをする
	9	高校生	高校生	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	お互いの好意を確認したのち、双方からキスをする (8と同じ男女)
	10	成人	成人	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	結婚式の誓いのキスとして行う (8・9と同じ男女)
F	11	高校生	高校生 (リボン)	唇 ← 唇	恋愛関係	○	男性が女性のリボンにキスをしたことが、想像のキスの場面として描写されている
	12	高校生	成人※	唇 ← 唇	モデル仲間	○	寝たふりをしている女性に男性が勝手に行ったキスの回想
	13	高校生	成人※	唇 ← 唇	モデル仲間	○	12と同じ回想
	14	高校生	成人※	唇 ← 唇	モデル仲間	○	探し物を見つけた女性に対して男性が不意にキスをする (12と同じ男女)
	15	村人	神	唇 ← 唇 (男性の一方的な)	婚約関係	×	結婚を望まない女性に対して、男性が一方的にキスをする
	16	村人	神	唇 ← 唇	夫婦関係	×	男性から一方的に、女性を押し倒す形でキスをする (15と同じ男女)
	17	村人	神	唇 ← 唇	夫婦関係	×	女性に対して一方的に男性がキスをする (15と同じ男女)
	18	高校1年生	高校1年生	唇 ← 唇	同級生	×	保健室で寝ている女性に男性が勝手にキスをする
	19	高校1年生	高校1年生	唇 ← 唇	同級生	○	下校中に、男性が一方的にキスをする
	20	高校1年生	高校1年生	ほほ←唇	同級生	○	お互いの好意を確認したのち、男性から行う (19と同じ男女)
	21	高校生	成人	唇 → 唇	恋愛関係	○	女性から男性にキスをする
	22	高校生	アイドル	唇 ↔ 唇	幼馴染み	○	もみ合いの中、転倒した際に、生じる
	23	高校生	アイドル	唇 ← 唇	幼馴染み	○	男性が告白をして、すぐにキスをする。その後、女性も好意を伝える。
G	24	高校生	高校生	唇 ← 唇	恋愛関係	○	口論を止めるために、男性からキスをする
	25	高校生	高校生	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	男性からのキスに応える形で、女性からキスをする (24と同じ男女)
	26	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	男性の兄への電話の内容にふてくされた男性が、不意に女性の後ろからキスをする

注. 女性・男性の属性および関係性にある※は、対象とした雑誌の1話だけを読んだだけでは確定できず、推測されたものであることを意味している。
 注. 方向性の「→」は女性から男性に、「←」は男性から女性に、キスをしたことを意味しており、「↔」は双方からキスをしている(あるいは、一方からのキスの動作にもう一方も応答している)ことを意味している。
 注. 女性の男性に対する好意について、「○」は好意をもっていることを、「×」は好意をもっていないことを、「△」は好意の有無が曖昧あるいは確定できないことを意味している。また「—」は第3者のキスをみている状態であり、好意の有無を考慮する必要のないものであることを意味している。

表5 女性向けコミック誌におけるキス場面のまとめ

雑誌	番号	属性		部位・方向性 (女性←男性)	関係性	女性の男性 への好意	状況
		女性	男性				
H	27	成人	成人	唇 ↔ 唇	夫婦関係	—	主人公が子どもの頃に行った結婚式での新郎と新婦のキス
I	28	成人	成人	おでこ ← 唇	同僚	○	女性がおでこをぶつけた際に、おでこの痛みをとる(治す)ために男性が不意にキスをする
J	29	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	寝起きの女性に、男性からキスをする
	30	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	歩きながら口げんかをしているなか、男性が強引に女性を車に押し込み、キスをする(29と同じ男女)
	31	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	車の中でのセックスに移行する過程で、男性からキスをする(29と同じ男女)
	32	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	車の中でのセックスの過程において、男性から女性にキスをする(29と同じ男女)
	33	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	車の中でのセックスの過程において、男性から女性にキスをする(29と同じ男女)
	34	成人	成人	唇 → 唇	上司・ 部下関係	○	夜中に2人で歩いているときに、女性から強引に男性にキスをする
	35	成人	成人	唇 ← 唇	アルバイト・ 経営者関係	○	男性が女性にキスをしたシーンの回想
	36	成人	成人	唇 ← 唇	アルバイト・ 経営者関係	○	男性が女性に告白をし、キスをする(35と同じ男女)
	37	成人	成人	唇 ← 唇	派遣社員・ 社長関係	○	以前より女性からの好意に気づいていた男性が、女性に指輪を渡し、不意にキスをする
	38	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	女性の両親への結婚の申し入れがうまくいかず落ち込む男性に、「できちゃった婚」を申し出た女性に対して、キスをする
	39	成人	成人	唇 → ほぼ	兄妹関係	△	男性が酔いつぶれて寝ているときに、女性がキスをする
	40	成人	成人	唇 → 唇	恋愛関係	○	女性のために海外への転勤を渋る男性の想いを感じ、女性から不意にキスをして、転勤を勧める
	41	成人	成人	唇 ← 唇	恋愛関係	○	互いの好意を確認したのち、男性の部屋に行き、男性から不意にキスをする
	42	成人	成人	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	男性からのキスに女性も応える(41と同じ男女)
	K	43	成人	大学院生	唇 ← 唇	恋愛関係	○
44		成人	成人	唇 ← 唇	幼馴染み	△	男性が女性に不意にキスをしたシーンの回想
M	45	成人	成人	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	夜の公園で2人が今後のつきあい方について語り合っている中で、男性からのキスに女性も応える
N	46	中学3年生	中学3年生	唇 ↔ 唇	同級生	△	役者をしている男性が初めてのキスシーンの練習として、女性とクリアファイルを挟んでキスをする
	47	成人	成人	唇 ← 唇	友人関係	○	女性の婚約パーティーで、女性の普段の様子を公表し、女性と口論になるなか、突然男性からキスをする(46と同じ男女)
	48	成人	成人	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	部屋で話をしながら、自然な流れでキスをする(46と同じ男女)
	49	高校生	高校生	唇 ← 唇	同級生	○	男性に好意を向ける女性に対して、拒否するために“愛情の一切入っていない”キスをする
	50	高校生	高校生	唇 ← 唇	同級生	○	探し物をしているなか、倉庫に閉じ込められ、女性もっている鮎をもらう。探

雑誌番号	属性 女性	男性	部位・方向性 (女性—男性)	関係性	女性の男性 への好意	状況
51	成人	成人	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	し物がみつかり、突然男性が女性にキスをし、舐め口移しする 主人公（小学生女子）の母親と主人公の同級生（男子）の父親が、主人公の家で、キスをする（両者はそれぞれ片親）
52	成人	成人	唇 → 唇	同僚	×	男性とお酒を飲み、酔った勢いで女性から男性にキスをする
53	高校生	中学生	唇 ← 唇	恋愛関係	○	女性に好意を寄せる異性にみせつけるために、男性から不意にキスをする
54	高校生	中学生	唇 → 唇	恋愛関係	○	男性の想いに気づかなかった女性が、芝生に寝転がる男性に対してキスをする
55	高校1年生	高校1年生	唇 ← 唇	恋愛関係※	○	笑ってしまい空にとんでいく女性を捕まえて、キスをする
56	高校生	高校生	唇 ↔ 唇	恋愛関係	○	プリクラ機のなかで顔を近づけた時に男性がキスをしようとし、女性がそれに応える

注. 脚注は表4と同じ

まず、キスをしている両者の属性をみると、少女向けコミック誌では、どちらか一方あるいは両方が中学生や高校生であるものは、26 場面中 20 場面 (76.9%) あった。また、小学生同士のものも 1 場面 (3.8%) あった。一方、女性向けコミック誌では、そのほとんどが成人（会社員などが多い）であり、どちらか一方あるいは両方が中学生や高校生であるものは、30 場面中 7 場面 (23.3%) であった。この差異は、想定読者層を意識したものであると考えられるが、一方で、中学生や高校生であっても、場合によっては小学生であっても、キスを承認するメッセージを読者である小学生や中学生、高校生に与えている可能性があるともいえる。

次に、キスの方向性（どちらからキスをしたか）を検討したところ、少女向けコミック誌では、26 場面中 17 場面 (65.4%) が男性からのキスであり、女性からのキスは 4 場面 (15.4%) にとどまっている。女性向けコミック誌では、30 場面中 18 場面 (60.0%) が男性からのキスであり、女性からのキスは 5 場面 (16.7%) であり、少女向けコミック誌と同様の傾向がみられた。告白・別れの宣告においても、“男性は優位で、女性は受身であるべき”（牧野ら, 2012）という姿が描かれていたが、キスにおいても、その傾向がみられることが示唆された。

さらに、両者の関係性やキスの状況について検討すると、少女向けコミック誌では、恋愛関係が 26 場面中 10 場面 (38.5%)、婚約関係・夫婦関係が 3 場面 (11.5%) であった。言い換えると、幼馴染みや同級生など、恋愛関係を構築していない関係性でキスをしている場面が、26 場面中 13 場面と、半数を占めているともいえる。また、恋愛関係・婚約関係・夫婦関係以外の関係性でキスをしている場面 13 場面のうち、11 場面 (13 場面の 84.6%) では、女性は男性に好意をもっている状態にあり、7 場面 (13 場面の 53.8%) では、男性が女性に対して、「不意に」、「一方的に」、「勝手に」キスをしている場面であった。

女性向けコミック誌では、恋愛関係が30場面中17場面(56.7%)、夫婦関係が1場面(3.3%)であった。これらをあわせると60%となり、少女向けコミック誌よりも10%多くなっていた。しかし、女性向けコミック誌でも、40%は、同僚、上司・部下関係、同級生など、恋愛関係を構築していない関係性でのキスが描写されている。恋愛関係・夫婦関係以外の関係性でキスをしている場面17場面のうち、8場面(17場面の47.1%)では、女性は男性に好意をもっている状態にあり、また、7場面(17場面の41.2%)では、男性が女性に対して、「不意に」、「強引に」、「突然」キスをしている場面であった。

これらから、キスをする男性や女性の属性は、想定読者層によって異なっているが、恋愛関係や夫婦関係におけるキスの場面が半数程度占めている一方、恋愛関係が構築されていない関係性であっても、特に女性が男性に対して好意をもっている場合に、その男性の方から、「不意に」、「一方的に」、「勝手に」キスする場面が描かれる傾向が、少女向けコミック誌にも女性向けコミック誌にも、共通して描かれていることが明らかになった。

4——本研究のまとめと課題

本研究では、少女向けコミック誌と女性向けコミック誌における恋愛行動・性行動の描写について、量的分析と内容分析を行った。その結果、量的分析から、①少女向けコミック誌は、恋愛関係が構築されるまでを描いているものが多いのに対し、女性向けコミック誌は、恋愛関係構築以降の口論や別れまで描いているものがみられる、②少女向けコミック誌には、告白や別れの宣告の場面などから、恋愛関係において、主導権は男性がもち、告白や別れの宣告も男性がすべきであるというジェンダー・ステレオタイプを形成する可能性がある、③雑誌によって、性行動の描写が多いものと少ないがあり、また、なかには、暴力行為やフェティシズムを反映・喚起するような場面もみられる、ことが示された。また、キス場面をもちいた内容分析では、恋愛関係・夫婦関係以外でのキス場面も半数ほどみられ、そのなかには、男性が「不意に」、「一方的に」、「勝手に」キスをする場面が描かれていることも確認された。

これらの結果は、牧野ら(2012)の知見ともある程度一致するものであり、“子どもたちに誤ったジェンダーの刷りこみにつながっていくことも考えられる”(牧野ら,2012)という懸念のもと、“子どもたちに本当に必要な情報を提供し、メディアからの歪んだ情報を読み解き選びとっていく力、批判的に読み取る力、すなわちメディアリテラシーを養っていくことが必要である”(牧野ら,2012)と述べている。

しかし、少女向けコミック誌の読者であると想定される小学生・中学生・高校生が、マンガに描かれているものをそのまま引き受けているとは必ずしも言えない。石川(2007)は、日本性教育協会が実施した第6回青少年の性行動全国調査のデータを分析している。その結果、デート経験率は、コミックスを情報源として選択した高校生女子(58.4%)や大学生男子(73.2%)よりも、コミックスを情報源として選択しなかった高校生女子(68.9%)

や大学生男子 (82.7%) の方が高いことを明らかにしている。また、石川 (2008) でも、コミックスを情報源として選択した者と選択しなかった者の間で、「愛情がないのに性交すること」、「恋人がいるのにその人以外と性交すること」、「知り合ってからすぐの相手と性交すること」の肯定率には差異がなく、唯一、「男性のほうが性欲が強い」という意識において、選択者の方が非選択者よりも肯定率が高いことを明らかにされている。これらの結果から、少女向けコミック誌の読者であると想定される小学生・中学生・高校生は、マンガを情報源としつつも、実際の恋愛とは区別して考えていたり、非現実的な創作物であると捉えていると考えられる。

これまで、少女向けコミック誌やレディース・コミックを含めた女性向けコミック誌での描写に関する分析は行われてきているが (福富, 1992; 雲野, 2006; 田代, 2008; 牧野ら, 2012 など)、これらは、コミック誌などにある性的・攻撃的な場面をとりあげ、描写内容の問題点を指摘し、子どもたちへの悪影響を懸念し、メディアリテラシー教育の充実を提唱している。しかし、実際に、このような性的・攻撃的な場面の描写があるコミック誌を、読者である子どもや青年がどのように受け止め、現実の異性関係に反映されているかは、十分に検討されていない。このようなコミック誌の描写について、大人 (親、研究者、教育者など) が過大に問題視しているだけであって、当の子どもたちや青年は、それほど影響を受けていない可能性もある。今後は、読者である子どもたちや青年の受け止め方について、検討を深めるとともに、「性的な描写があるから、マンガを排除する (子どもたちから遠ざける)」のではなく、マンガをきっかけや材料として、子どもたちと恋愛や性について語り合うことこそ、リテラシー教育の端緒となると考えられる。

《引用文献》

- 飛田 操 (1991). 青年期の恋愛行動の進展について 福島大学教育学部論集, **50**, 43-52.
- 福富 護 (1992). 雑誌メディアに見られる性表現と男女描写 青年心理学研究, **4**, 16-21.
- 石川由香里 (2007). 情報源の違いがもたらす性意識のジェンダー差—〈純粋な恋愛〉志向をめぐって— 日本性教育協会 (編) 「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告 小学館, pp.81-100.
- 石川由香里 (2008). コミックスでわかる恋愛・性行動 セクシャリティ, **36**, 30-35.
- 金子由美 (2013). 商品化される子どもたちの性 現代性教育ジャーナル, **33**, 5-6.
- 牧野友紀・石田志子・藤田 愛 (2012). 小中学生対象の月刊コミックにおける恋愛と性に関する言語とシーンに関する分析 母性衛生, **52**, 563-569.
- 松井 豊 (1990). 青年の恋愛行動の構造 心理学評論, **33**, 355-370.
- 松井 豊 (2000). 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 92-93.
- 日本性教育協会 (編) (2007). 「若者の性」白書 第6回青少年の性行動全国調査報告 小学館
- 日本性教育協会 (編) (2013). 「若者の性」白書 第7回青少年の性行動全国調査報告 小学館
- 田代美江子 (2008). 「レディース・コミック」に描かれる〈恋愛〉—「恋愛=支配・暴力」の構図—セクシャリティ, **36**, 36-45.
- 雲野加代子 (1996). 漫画におけるジェンダーについての考察—少女漫画の恋愛至上主義— 大阪明浄女子短期大学紀要, **10**, 187-196.
- 雲野加代子 (2006). 漫画におけるジェンダーについての考察—恋愛と武闘—大阪明浄大学紀要, **6**, 77-85.

付記：本論文における少女向けコミック誌および女性向けコミック誌の恋愛行動・性行動の描写数のカウントは、以下の和光大学2013年度「青年心理学演習」3年次受講生7名が行ったものである。

梅澤鐘穂・金田智代・川越彩香・鬼頭和可奈・久保田菜月・呉 明月・鈴木成美（50音順）

————— [こうさか やすまさ・和光大学現代人間学部心理教育学科准教授]